

[プロジェクト名]	[分野]
荒野のカボチャプロジェクト	教育・研究 地域交流
[代表者]	
農学部 地域環境科学科 4年 川島 隆行	
[参加者]	
川島 隆行（農学部・地域環境科学科・4年） 小名木 卓磨（農学研究科・地域環境科学専攻・M1） 久芳 慶子（農学部・生物生産科学科・3年） 野澤 智美（農学部・資源生物科学科・3年）	
[連携先]	
茨城県稲敷郡阿見町上長地区・うら谷津再生プロジェクト	
[プロジェクトの実施計画概要]	
<p>本プロジェクトは、阿見町上長地区にある谷津田（うら谷津）において、荒れ地をそのまま活かしたカボチャ作りを、学生とうら谷津を耕す地域住民の方々とで連携し、実施をするものです。</p> <p>茨城大学がある茨城県は、耕作放棄地面積が全国で第2位となっています。農学部が位置している阿見町は、かつてはスイカやハクサイの一大産地でした。しかし、現在では農業の空洞化が進み、大子町や常陸大宮市といった県北の山間地と並ぶほど、耕作放棄地が増加しています（耕作放棄率県内第6位）。阿見町上長地区にあるうら谷津と呼ばれる谷津田は、約30年もの間、5haの田んぼのほとんどが耕作放棄をされていました。3年前から、地域住民・地元農家・茨城大学学生の協働によって、行きつ戻りつしながらうら谷津再生は進んでいます。かつては全く人が入れなかった場所も、今では散歩をする人が見られるようになりました。</p> <p>昨年、阿見町君島地区で自然農を行っている浅野祐一さんの指導のもと、うら谷津で自然農の野菜づくりを行いました。自然農とは、不耕起・不除草・不施肥など、自然に任せた栽培方法です。自然農の作物の中では、特にカボチャが良くできました。それほど人が手をかけなくても、うら谷津の自然の中でカボチャは元気に育ち、ぐんぐんと蔓を伸ばしていきました。中には木の枝に蔓が巻きついて、まるで「カボチャの木」のようになったものもありました。とても大きくて、甘いカボチャがたくさん収穫できました。昨年の経験を元にして、今年はカボチャ作りを重点的に行っていくことになりました。ただ農業を行うだけでなく、自然再生と農業を結びつける点において、自然農は大きなポイントとなります。</p> <p>趣旨としては、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① カボチャの種まきから収穫までの一連の栽培技術の開発</li> <li>② カボチャのおいしい食べ方や調理の仕方の開発</li> <li>③ カボチャをイベントやお祭りで販売する方法の模索（特産品化）</li> </ol> <p>以上のことを、浅野さんに学びながら学生と市民が共に考え、連携をしてプロジェクトに取り組んでいきたいと思っております。</p> <p>このプロジェクトを進めていく中で、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 栽培中のカボチャの観察会</li> <li>② 収穫したカボチャを使った食事交流会</li> <li>③ 自然農の勉強会（圃場見学）</li> </ol> <p>以上の行事を開催することを計画しています。</p> <p>また、プロジェクトによって期待される成果としては、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 阿見町にたくさんある耕作放棄地を活かしていく取り組みの一環となる</li> <li>② 学生は農に関する知識・技術を向上させ、地域住民・地元農家と交流することでコミュニケーション能力を構築することができる</li> <li>③ カボチャ栽培を通じ、うら谷津再生活動へ市民が参加する可能性がより大きくなる</li> <li>④ 阿見町の新しい特産品づくりへの第一歩となる</li> </ol> <p>以上のことが考えられます。</p>	

### **【プロジェクトの成果報告】**

本プロジェクトでは、阿見町上長地区にある耕作放棄された谷津田（うら谷津）において、荒地をそのまま活かしたカボチャ作りを、学生とうら谷津を耕す地域住民の方々との連携のもとに実施しました。今年取り組みでの最大の成果は、耕作放棄地における自然農による栽培ノウハウの蓄積です。今回のカボチャ栽培は、数多くの発見に満ちていました。

耕作放棄地において自然農による栽培を行う場合にまず重要なことは、「種まきは丁寧に行うこと」です。これはあまりにも当然のことかもしれませんが、ただ、自然農において人間が行う作業は「種まき」と「草刈り」が主なものであり、これをおろそかにすることは許されないと学びました。指導してくださった農家の方によれば「自然農では土を耕さないで種を播くけれど、耕してから種を播く人と同じくらい時間をかけて播く」とのことでした。

自然農においては、時には草を生やして外敵からカボチャを隠すシェルター代りになってもらい、時にはカボチャが育つのを妨げないように周りの草を刈る必要もあります。この草の管理の重要性自体は以前から分かっていたのですが、その管理方法をより明確・具体的にすることができました。

以上のように、耕作放棄地におけるカボチャ栽培の管理方法を明確にすることができました。

また、このカボチャ収穫後の畑にコマツナとカブの種をまいたところ、一度草刈りをしただけなのに非常に素晴らしい生長をしました。このことから、耕作放棄地に蓄えられた豊かな地力があることが確認できました。

種まき・草刈りなどの作業のほか、観察会において地域住民・地域農家・学生がともに学ぶことができました。この過程において、地域住民・地域農家とのつながりをより強くすることができました。

本プロジェクトで蓄積されたノウハウ、そして地域とのつながりは今後の耕作放棄地再生活動において重要なものとなると思われます。